



まつもと医療センター

広報誌 Vol. 38 2020.1



◆ 目次

2p	院長年頭あいさつ
3p	第10回まつもと医療センター病院祭
4p	日本内科学会総会 研修医賞を受賞して
5p	がんサロンで癒しのときを一緒に過ごしませんか・音楽はGIFT!
6p	第73回国立病院総合医学会参加・受賞について
8p	第10回登録医大会を終えてー心不全連携パスについてー
10p	あなたの家のお雑煮は?(栄養科)
11p	外来診療表(内科系)
12p	外来診療表(外科系・小児科)・編集後記

理念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

基本方針

1. 医学的根拠に基づいた医療を安全に提供します
2. 適切かつ十分な説明を行い、理解と同意を得た医療を提供します
3. 患者さんの思いを大切に、敬意と思いやりの心で接します
4. 地域の医療機関と連携し、地域医療の向上に努めます
5. 教育研修の充実を図り、職員的能力向上と人材育成に努めます
6. 常に前進・研鑽し、臨床研究を通じて医療水準の向上に努めます
7. 明るく健全な病院経営を行います

患者さんの権利

わたしたちは以下の患者さんの権利を守り、最善の医療を提供するように努めます。

1. 良質かつ適正な医療を平等に受ける権利
2. 自己の病状や予後・治療の手順とその危険性および有益性・代替手段についての十分な情報提供を受ける権利
3. 他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利
4. 意思に反する場合、情報を知らされない権利
5. 検査の諾否や治療法の選択について、自らが決定する権利
6. いつでも自己の決定を取り消すことができる権利
7. 個人の医療情報に関するプライバシーが守られる権利
8. 健康教育を受ける権利
9. 人格や価値観が尊重され、尊厳を保って生を全うする権利

年頭あいさつ

皆さん明けましておめでとうございます。

令和2年が始まりました。年末年始のお休みに日当直に当たられた方、ご苦労様でした。

今年はねずみ年です。ねずみは子孫繁栄や貯蓄のシンボルとされていますので、ご利益があるといいですね。夏には、オリンピック・パラリンピックが開催されます。その他病院周辺の再開発もいくつか進む予定です（病院前県道の拡幅工事と正面駐車場整備、村井駅の改装と周辺道路の整備、隣接商業施設の建築等々）。

今年は診療報酬改定がありますが、これに加えて医療制度改革を見据えて、当院も新たな取り組みや対応が必要になります。働き方改革として、過重労働を避け、十分に休みが取れるように、会議の見直し、勤務と自己研鑽の区別、業務改善を行います。各職場長におかれましても、適切な勤務命令、あるいは休息命令を出していただくよう、お願いいたします。

医師の負担をなくすために、さらなる医師確保や診療認定看護師の現場導入が必要になります。医師確保はすぐには難しいと思われるので、これを補填するものとして、当院でも独自に診療認定看護師を育成できるよう、施設認定の取得を目指しています。また、2病院が一つになったことから、近いうちに病院機能評価も受審したいと考えています。

病院が変わることで、周辺の状況を動かすことができます。昨年からの病院の収支も黒字になっており、長期的にたまった借金の返済も少しずつ返却できるようになっています。今年もこれを維持し、外来棟の実現にむけて頑張りましょう。

令和二年が皆さんや病院にとって良い年になりますよう、祈念いたします。



まつもと医療センター

院長 小池 祥一郎
こ いけ しょういちろう

第10回 まつもと医療センター病院祭

地域とともに ～スマイル令和～ を終えて



病院祭実行委員 委員長
血液内科

いとうとしろう
伊藤 俊郎

令和元年10月5日、第10回の病院祭が開催されました。当日は天気にも恵まれ、多くの来客で賑わうことができました。特別講演には信州大学整形外科講師の中村幸男先生をお招きし、「やってみよう！骨若返り体操」といった演題でわかりやすくお話をいただきました。また太鼓演奏や、餅つき、それに豚汁、焼きそばなどの屋台、手作り品の販売、病院探検ツアー、健康チェック、それに健康ふきやなどさまざまなイベントにより、子供から大人まで多くの方に楽しんでいただけたと思います。外来ホールでは合唱、ダンス、演奏会に引き続き最後は信州プロレスで大盛り上がりして病院祭も幕を閉じました。病院祭が盛況のうちにとりおこなうことができたのも、参加していただいた職員スタッフのおかげです。ありがとうございました。

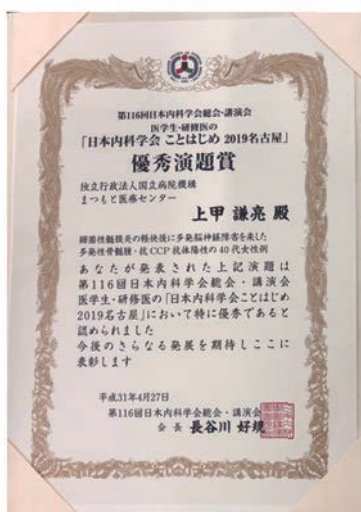
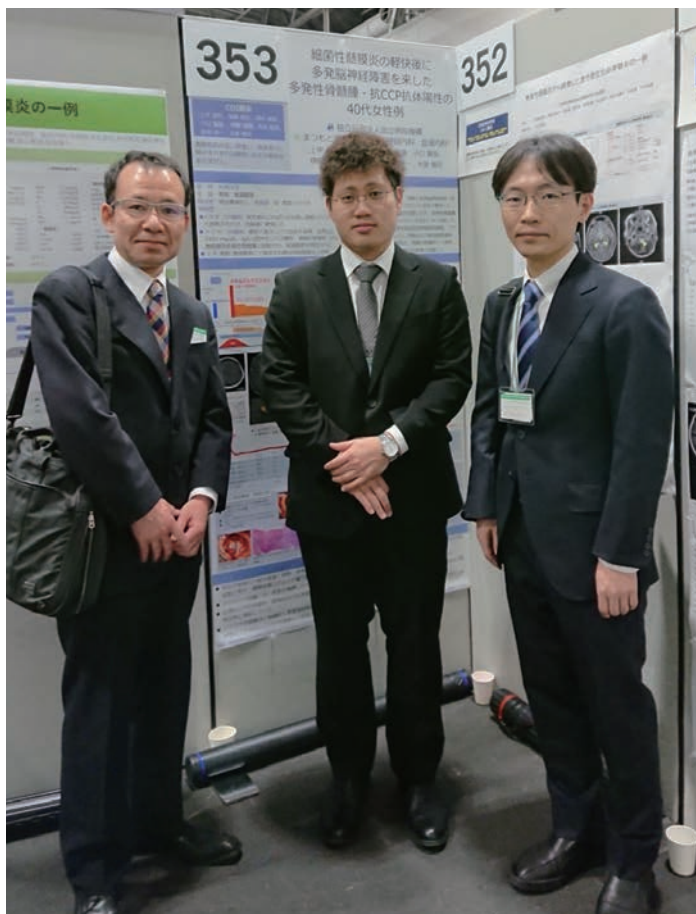




日本内科学会総会 研修医賞を受賞して

研修医 上甲 謙亮

国立病院機構まつもと医療センター研修医の上甲謙亮です。2019年4月に名古屋で開催されました日本内科学会ことはじめに参加し、優秀演題賞をいただきました。演題は「細菌性髄膜炎の軽快後に多発脳神経障害を呈した多発性骨髄腫・抗CCP抗体陽性の40代女性例」です。今回のポスター作成では神経内科福島先生をはじめとするまつもと医療センターのたくさんの先生方にご指導いただき、このような賞をいただくことができました。先生方にはこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。まだまだ未熟な身ではありますが、今回の経験を今後に活かせることができるよう精進して参りたいと思います。本当にありがとうございました。



がんサロンで癒しのときを一緒に過ごしませんか



緩和ケアチーム

がんサロンは、患者さんや家族の癒しに繋がることを目的に本年度から再スタートしました。患者さんや家族との交流会のあとにロビーコンサートなどを行っています。今までに北野医師によるフルートコンサート、管理栄養士の間瀬栄養室長より体重管理の講義、鈴木祐介医師によるピアノコンサートを行いました。コンサートでは、フルートやピアノの音色に合わせ参加された皆さんと一緒に歌いました。ある患者さんからは「歌を歌うことができてよかった、楽しかった」と感想を頂きました。管理栄養士の講義では食べることの大切さを感じられる機会になりました。現在、次回のがんサロンを企画中ですが、どなたでもご参加できますので、お待ちしております。

音楽はGIFT!



療育指導室 たか はし あけ み
高橋 明美

「西1、西2病棟では、地域に関わる音楽ボランティアの方々によるコンサートを実施しています。今年は、Jamesさんの楽しい歌と軽快な音楽、工藤さん・小林さんによるマリンバとスティールパンの見事な演奏、仲良し山田さん親子のほのぼのウクレレ、ヴァイオリンの牛山先生とピアノの塚本先生が奏でる洗練された音色、「広丘童謡唱歌の会」の懐かしく温かい歌、ゴスペル「響」のかっこいいR & B、そして、伝統の「松本交響楽団」(有志)の重厚な音のハーモニーに、楽団OBである当院循環器内科医長の越川先生がヴァイオリンでゲスト出演。当院MEの峰村さんは、病棟の居室やベッドサイドを周って三線の演奏と歌を聴かせてくれました。

病院に入院されている患者様や利用者様にとって、真心の音楽は、喜びの時間と心地良い空間を与えてくれるGIFTであると思います。ご出演くださった皆様方に、心より感謝申し上げます。

これをご覧の音楽に親しまれている皆様方へ、素敵なGIFT大募集中！
どうぞよろしくお願いいたします。



第73回国立病院総合医学会参加・受賞について



第73回国立病院総合医学会が、「令和における国立医療の挑戦～明日は変えられる～」のテーマのもと、2019年11月8日・9日の2日間、名古屋にて開催されました。当センターからも参加し、発表が行われました。発表者の中で4名の方が受賞されましたのでここに報告します。



院内利用の汎用人工呼吸器のアラーム複数伝送の試み

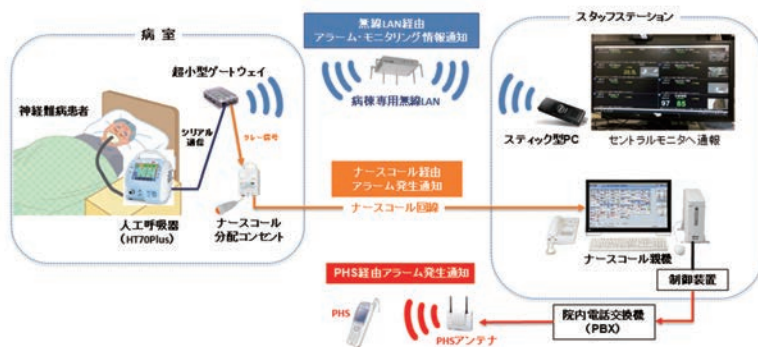
脳神経内科 臨床研究部 なか むら あき のり
中村 昭 則

第52回塩田賞受賞記念講演要旨

呼吸不全患者の治療に必要な人工呼吸器は、生命維持装置であるが故、機器本体や接続回路等に異常が生じた場合に迅速な対応や安全確保が必要である。この異常時に発生するアラームは音や光での通知であり、関係者が離れた場所に居る場合に気づくのが遅れてしまうと重大なトラブルとなる可能性がある。人工呼吸器には、病棟内ナースコール回線と接続可能な機種があるものの、接続にはメーカー側が責任を取らないこと、患者が利用するナースコールと差別化できないこと、さらに吸引処置の際にナースコールが頻回に発生することで日常業務を妨げてしまうことから、一般利用は進んでいない。

そこで、人工呼吸器の安全利用のために情報通信技術（ICT）を利用したアラーム音・情報の遠隔伝送システムの開発に取り組んだ。具体的には、人工呼吸器の保守点検用シリアル通信ポートに小型ゲートウェイを接続し、院内専用無線LANを経由してスタッフステーションに設置したモニターへの表示・通報を行った。また、ゲートウェイをナースコール用コネクタに接続して、デスクトップ型親機および看護師が携帯するPHSに伝送した（図1）。気管内吸引などで一時的な回路外れにより発生するアラームについては30秒間連続して発生した場合にのみに伝送するようにし、アラームの頻回発生を防ぐ工夫を行った。4台の人工呼吸器に5ヶ月間の試験運用を行った結果、病棟スタッフへの新たな負担増や接続機器の異常は見られず、安全利用が可能であった。

将来的には、本システムを他社の人工呼吸器やバイタルサインモニターへ展開し、アラームの種別・内容を示すことのできるスマートフォンの利用やアラーム疲労への対策として人工知能を用いたアラーム発生機器類の一元管理を行いたいと考えている。



中村昭則ら：院内利用の汎用人工呼吸器のアラーム複数伝送の試み。国立病院学会誌「医療」72: 499-504, 2018.

図 院内利用の人工呼吸器のアラーム通報複数伝送システム



病院統合に伴う地域包括ケア病棟新設による効率的な病床管理の構築 ～急性期から在宅復帰までを支援する～

庶務管理課 高木 靖之 たかぎ よしゆき

当センターは平成30年5月の病院統合により、HCU病棟、急性期一般病棟、地域包括ケア病棟を有する急性期ケアミックス型病院となりました。今回の国立病院総合医学会においては、それらの病床機能や診療点数を踏まえた効率的なベッドコントロールを検討・実行したことが当センターの運営改善に寄与したことについて発表をさせていただきました。

今回の受賞については、各病棟・外来看護師長をはじめとした看護部、医師、リハビリ科、MSW、診療情報管理士等による取り組みが高く評価された結果だと感じております。

今後は、診療報酬改定により制度が大きく変わることが予想されますので、現状に甘んじることなく、常に改善をしていく必要があると考えております。



診療材料の費用軽減の試み

企画課 小木曾 紀仁 おぎそ のりゆき

病院運営費用の中でも金額の大きい診療材料について、これまでも費用削減の取り組みを進めていましたが、客観的なデータ上で更なる改善の余地が見込める状態でした。そこで、県内の同じ組織である信州上田医療センターと協力して、業者と価格見直しの交渉を行い、その取り組みを学会で発表しました。

今回の学会で評価され、賞を頂けたのは、信州上田医療センターの協力、上司のアドバイス、同僚や部下の支え、そして何より医師や看護師等、実際に材料を使用する医療現場の方々の費用削減に対する理解と協力があったからこそだと感じています。今後も病院運営のために、費用面の見直しで貢献していきたいと思います。





ドレーン・チューブ類抜去のインシデント防止に向けた取り組み ～「術後ドレーン守り鯛」活動の成果～

東4病棟 副看護師長 宮嶋 純子

今回、ドレーン・チューブ類抜去のインシデント防止に向けた取り組み「術後ドレーン守り鯛」の活動の成果について国立病院総合医学会にてポスター発表をしました。「術後ドレーン守り鯛」は、周手術期に重要なドレーン・チューブ類を、身体拘束に頼らず、患者さんの苦痛を最小限にしながら自己抜去を防止する目的で結成したものです。主要メンバーは、外科医師、麻酔科医師、医療安全管理係長、病棟看護師で構成され、ドレーン固定方法や、せん妄を理解するための学習会の開催、自己抜去防止ラウンドを主軸として活動してきました。活動の結果により2017年度と比べて2018年度には13件のインシデント件数の減少に繋がりました。また割合においても自己抜去の件数が10%から3%に減少しました。これは、医師と連携し、せん妄発症を予測した早期介入、せん妄を誘発させる薬剤の使用回避、固定方法の統一、患者の観察強化などの対策を講じたことによる成果であると考えます。この活動を今後も継続させ、患者さんの安全安楽を第一に考えたケアを実践していきたいと思ひます。最後になりましたが、本研究をまとめるにあたりご協力くださいました皆様に深く感謝いたします。



第10回登録医大会を終えて

包括医療支援センター部長 小宮山 斎



さる11月20日に、市内のホテルを会場にして第10回登録医大会を開催させて頂きました。現在、当センターの登録医施設は293（医科226、歯科67）です。昨年のこの会は、5月に一体化して初めての開催でした。今回は、一体化してから1年が経過し、地域医療構想の中で公的・公立病院を巡る環境が厳しさを増し病院運営の舵取りが難しい中、新病棟での運営が順調

に軌道に乗り始めた中での開催でした。

さて、当日は、登録医の先生方、七病院会の先生方46名のご臨席を頂き、病院からは当直の医師をのぞくほぼ全員の医師が出席して、全部で約90名の参加となりました。

会の前半では、小池院長からのオープニングリマークとして、最近の病院を取り巻く医療制度改革

をめぐる動きと当院の運営方針についての紹介がありました。次いで循環器内科の越川医長による「高齢心不全症例への早期治療介入と慢性期疾患管理の重要性」の講演があり、その後整形外科、包括医療支援センターからのトピック紹介がありました。

引き続き行われた懇親会は、松本市医師会長杉山先生にスピーチ、塩筑医師会長清水先生に乾杯の挨拶を頂いたあと、副医局長で小児科医長の倉田先生、外科医長の中川先生の司会にて和やかに進行了しました。今年度の12名の新任の医師の紹介がありました。会場のあちらこちらで話しが弾み、塩筑歯科医師会理事滝先生にもご感想いただきあっという間の1時間でした。各テーブルでは当センターへの期待や注文も飛び交っていたようです。毎回顔を見せて頂いている先生も多く、地域の先生方との連携の深まりを改めて肌で実感した会でした。引き続き来年も行う予定です。



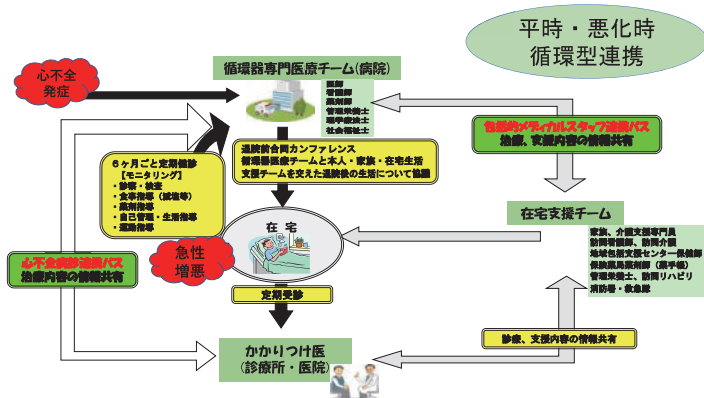
心不全連携パスについて



循環器内科 越川 めぐみ



病診連携・地域包括ケア



北信総合病院渡辺先生より借用

2019. 11. 20 まつもと医療センター 登録医大会

「心不全パンデミック」をご存じですか。現在、日本の心不全患者数は約100万人と推定され、しかも高齢化に伴い2035年までさらに増加していきます。パンデミックとは「爆発的な流行」という意味です。当院でも心不全患者さんは増え続けています。そして厄介なことに心不全は何度も繰り返すものです。ですから病院を退院した後も、かかりつけ医（診療所・開業の先生）に通院しながら、介護サービスを受けながら、リハビリを行いながら、心不全再発予防をしていくことが大切です。当院とかかりつけ医と連携を取るために患者さんに持っていていただくノートを心不全連携パスと呼びます。かかりつけ医が書き込んだり、当院の医師が書き込んだり、もちろんご本人や訪問看護師などのページもあり、それを見ればその患者さんの状態がすぐに分かり、治療もスムーズにいきます。長野県内でも最近盛んに導入され始めており、当院でも導入を予定し準備をしています。



あなたの家のお雑煮は？



栄養管理科 管理栄養士 **金子 昌幸** (かね こ まさゆき)

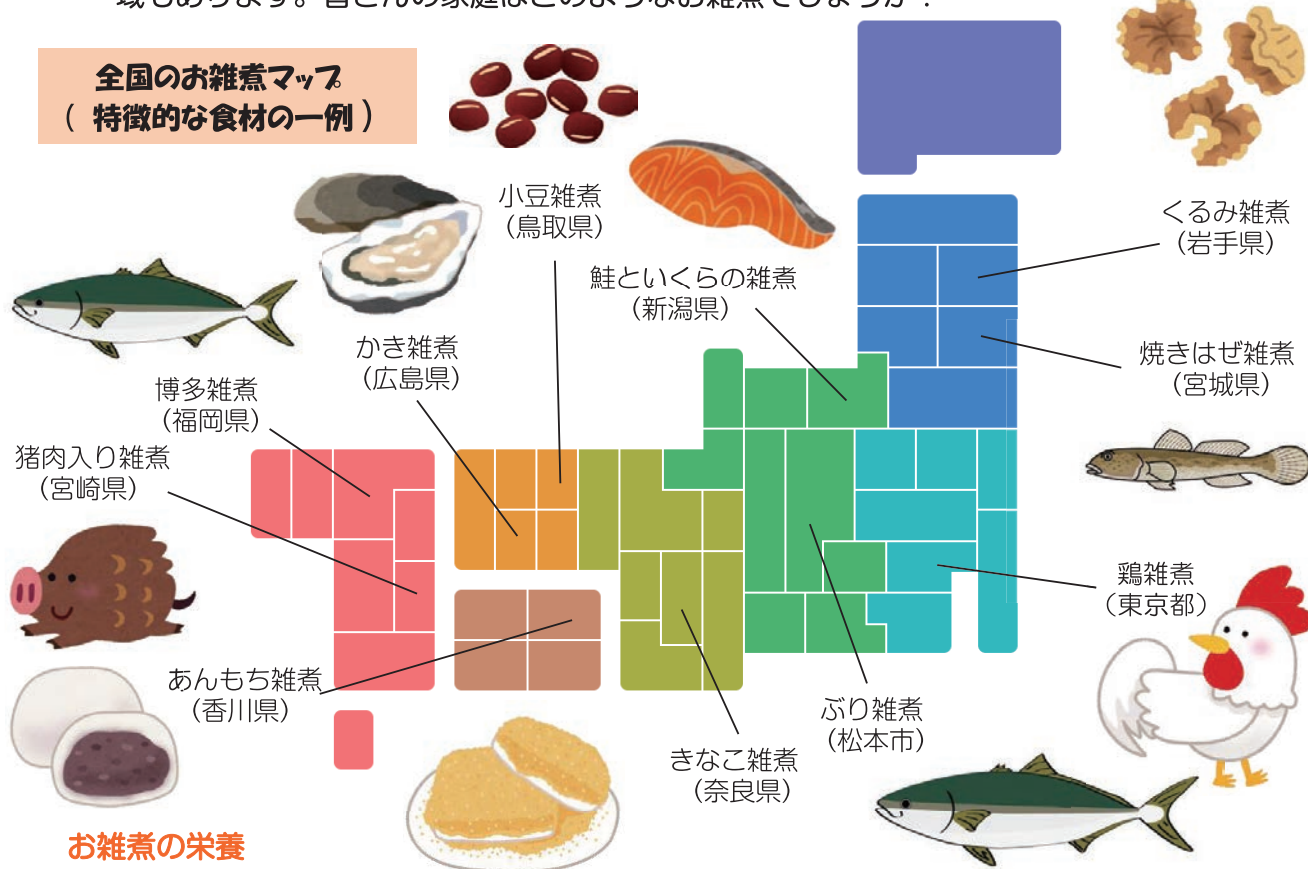
令和になって初めてのお雑煮はもう召し上がりましたか？
お雑煮は、一般的にはお餅や野菜の入った汁物です。正月三が日に食べる祝い膳であり、一般に行事食となったのは江戸時代からだと言われております。

全国のお雑煮

大別すると関東風と関西風になります。関東ではすまし汁に鶏肉やかまぼこ、小松菜、焼いた切り餅を加えます。一方関西では、味噌仕立ての汁に、大根、人参、八つ頭、茹でた丸餅を加えます。

地域によって味付け、具材、お餅の焼き方や形など様々な特徴があります。鮭や牡蠣を具材として使用したり、小豆の煮汁に餅を入れたり、餅の中に餡子が入る地域もあります。皆さんの家庭はどのようなお雑煮でしょうか？

全国のお雑煮マップ (特徴的な食材の一例)



お雑煮の栄養

お雑煮には炭水化物である餅だけでなく、たんぱく源となる鶏肉や魚介類、小松菜や人参などの野菜が使用されており、複数の食材をバランス良く摂取することができます。

汁物であるため食塩相当量が多い傾向にある料理です。
汁の飲み過ぎや餅の食べ過ぎに注意し、野菜などの具材を多く摂取するように心がけましょう。

(参考)

一般的な関東風雑煮 1人前の栄養価	
エネルギー	155kcal
炭水化物	29.0g
たんぱく質	8.1g
脂質	0.7g
食塩相当量	1.3g

当院のお雑煮

今年は元旦の行事食にお雑煮を提供いたしました。
お餅は安全面を考慮し、通常のものより軟らかく、べたつきの少ない「お餅風ムース」を使用いたしました。





NHOまつもと医療センター 外来診療表（内科系）

受診の受付は 8：30から11：30です 午後は予約のみとなります

令和2年 1月 1日 現在

診療科名		曜日	月	火	水	木	金
総合診療科		午前	清水郁夫	古田清	多田井敏治（第1,3,5週） 北野喜良（第2,4週）	須藤裕里子	佐々木信和
内科	血液内科	午前	仁科さやか	平林幸生 北野喜良（第1,3週） 伊藤俊朗（第2,4,5週）	伊藤俊朗 酒井香生子	平林幸生 中澤英之	松澤周治 伊藤俊朗
		午後		平林幸生	伊藤俊朗 妹尾寧	平林幸生	松澤周治 伊藤俊朗 （移植外来）
	循環器内科新患	午前	越川めぐみ	山崎佐枝子	山崎佐枝子	関村紀行	酒井貴弘
	循環器内科再来	午前	柏木大輔	越川めぐみ			
		午後	山崎佐枝子	越川めぐみ （15:00-16:00）	矢崎善一（第2週）	越川めぐみ 高橋文子	関村紀行
	血管外来	予約制 午前				海老澤聡一朗	
	消化器内科新患	午前	宮林秀晴	三井健太 大工原誠一 （交替制）	信大医師 （交替制）	多田井敏治	三井健太
	消化器内科再来	午前	大工原誠一	宮林秀晴 （予約制）	大工原誠一	三井健太	宮林秀晴 （予約制）
		午後		宮林秀晴 （予約制）	大工原誠一		宮林秀晴 （予約制）
	内科（肝臓）	午前	古田清			古田清	多田井敏治
		午後	古田清			古田清	
	糖尿・内分泌内科	午前		宮腰隆弘		兼子敦子	青木雄次
		午後		青木雄次			
	腎臓内科	午前	藤田識志	小林信彦	藤井文香		小林信彦 藤田識志
		午後	神應太朗	藤井文香		中川道元	
	呼吸器内科	午前	吉川佐和子 鈴木敏郎	鈴木祐介	吉川佐和子 丸野崇志	鈴木敏郎 福嶋敏郎（第2,4週）	鈴木祐介 丸野崇志
		午後	鈴木敏郎	鈴木祐介		鈴木敏郎	鈴木祐介 丸野崇志
	脳神経内科	午前	大原慎司 中村昭則	武井洋一 中村昭則	中村昭則	小口賢哉 武井洋一	福島和広
		午後				（もの忘れ外来） 武井洋一（予約制）	
	ペースメーカー外来	予約制 午後	関村紀行				
放射線科		午前	百瀬充浩	百瀬充浩	百瀬充浩	百瀬充浩	小岩井慶一郎

（医師交代などで変更する場合があります）

紹介入院受付を平日は19:00まで、土曜日は9:00から14:00までお受けいたします。

TEL 0263-58-4567（代表）

FAX 0263-86-3183（代表）



NHOまつもと医療センター

外来診療表 (外科系・小児科)

受診の受付は 8:30から11:30です 午後は予約のみとなります
(整形外科の受診受付は8:30から10:30です)

令和2年 1月 1日 現在

診療科名		日	月	火	水	木	金
外科 外科	午前		松 村 任 泰	中 川 幹	小 池 祥 一 郎 (予 約 制) 松 村 任 泰 松 下 明 正	杉 山 聡	中 川 幹 杉 山 聡
	乳腺・血管外科 (完全予約制)	予約制 午前		荒 井 正 幸 (予 約 制)			
		予約制 午後		荒 井 正 幸 (予 約 制)			
	乳腺内分泌外来 (完全予約制)	予約制 午前		金井敏晴(第1,3,5週) 千野辰徳(第2,4週)			
		予約制 午後		金 井 敏 晴 (第 1,3,5 週)		清 水 忠 博 (第2,4週13時-15時)	
	ストーマ外来	予約制 13時-15時				ストーマ外来	
救急科	午前・午後		松 下 明 正	松 下 明 正	松 下 明 正	松 下 明 正	松 下 明 正
脳神経外科	午前		渡 辺 宣 明	渡 辺 宣 明	渡 辺 宣 明	渡 辺 宣 明	渡 辺 宣 明
皮膚科	午前		新 倉 冬 子	新 倉 冬 子	新 倉 冬 子	徳 田 安 孝	新 倉 冬 子
				奥 山 隆 平 (信大教授)			
泌尿器科	午前		米 山 威 久	井 上 博 夫	小 宮 山 斎 米 山 威 久	井 上 博 夫	小 宮 山 斎
婦人科 (午後予約制)	午前			山 田 諭 (信 大 医 師)	品 川 光 子 (信 大 医 師)		
	予約制 午後			山田諭(予約制) (信 大 医 師) 13:00-15:00			
眼科	予約制 午前		村 田 暢 子	信 大 医 師	村 田 暢 子	松 尾 俊 彦	村 田 暢 子
			信 大 医 師		信 大 医 師		
耳鼻咽喉科	午前		後 藤 昭 信	後 藤 昭 信	特 殊 診 療 (予約制)	後 藤 昭 信	後 藤 昭 信
呼吸器外科	午前		牧 内 明 子	近 藤 竜 一	近 藤 竜 一	近 藤 竜 一	牧 内 明 子
	予約制 午後			近藤竜一(予約制)		近藤竜一(予約制)	
整形外科	午前 (10:30まで)		植 村 一 貴 上 甲 巖 雄	信大医師(予約制)	上 甲 巖 雄 宮 澤 駿	信 大 医 師	植村一貴(※) 宮澤 駿(※) ※(予約、紹介状持参)
	下肢関節外来 予約制 午後						信大医師 (予約制) (第2,4週)
麻酔科	予約制 午前		緩和ケア外来 井 上 泰 朗		術前外来 新 倉 久 美 子	術前外来 新 倉 久 美 子	術前外来 新 倉 久 美 子
小児科	午前		岩 崎 康 倉 田 研 児 高 山 和 生 上 田 宗 胤	北 原 正 志 藤 井 仁 深 松 崎 聡	西 村 貴 文 上 田 宗 胤 佐 渡 智 光	岩 崎 康 松 崎 聡 西村貴文(予約制) 藤 井 仁 深	北 原 正 志 倉 田 研 児 高 山 和 生
	午後 (予約制)		岩 崎 康 松 崎 聡	倉 田 研 児 西 村 貴 文 高 山 和 生	倉 田 研 児 藤 井 仁 深	岩 崎 康 北 原 正 志 西 村 貴 文 上 田 宗 胤	予 防 接 種

(医師交代などで変更する場合があります)

紹介入院受付を平日は19:00まで、土曜日は9:00から14:00までお受けいたします。

TEL 0263-58-4567 (代表)

FAX 0263-86-3183 (代表)

編集
後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は大きな自然災害があり、スポーツでは松本山雅降格等、暗い気持ちになることがありましたが、松本で春から冬を初めて経験し、アルプスの雄大な自然、情緒あふれる松本の城下町に何度もいやされました。この環境でできることに感謝し、またがんばりたいと思います。強いて言えば、もう少し暖かいとうれしいです。

(〇)

まつもと医療センター
第 38 号

令和 2 年 1 月 発行

発行人 院長 小池 祥一郎

〒399-8701

長野県松本市村井町南2丁目20番

TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183

<http://mmccenta.jp/>